

平成二十四年度入学式式辞

早春の寒さで遅れていた桜がまさに皆さんの入学を待っていたかのようにちようど見頃を迎えています。

ここに、当校に入学されました14名の皆さん、ご入学おめでとうございました。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方をはじめ、可児市長様ほか、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の中日本震災から一年を経りましたが、未だ復興が遅々として進まない現状を見るにつけ、一刻も早い復興を願わずにいられないのが日本国民一同の気持ちかと思えます。この一年の報道を見ていまして、震災で被害を受けられた方々に花や緑がいかに心の大きな癒しになっているかをあらためて認識させられたのではないのでしょうか。先日のテレビでも、岩手県陸前高田市で津波によりなぎ倒された7万本の松のなかの生き残った1本と同じアアカマツの種子が英国の王立キュー植物園に送られ、それらの種子が植物園の種子銀行に永久保存されることが報道されていました。生き残った1本のマツは被災者の希望の灯りであり、そのマツも生存が絶望的になったため、挿し木により生きたかたちでその分身が保存されるということです。また、被災地を訪問された皇后様が被災者から贈られたスイセンの花をしっかりと手に持っておられた映像を見てどれほど多くの人々がなぐさめられたか分かります。このように花と緑には人の心を癒し、人と人の繋がりを緊密にする秘められた力があります。植物はものを言うことはできず、動くことも出来ませんが、人と同じ生をもつ生き物に他ならないから心を動かされるのではないのでしょうか。

本校は花の都ぎふ運動における花と緑の分野での高度な専門技術者育成を目的として平成16年に花フェスタ記念公園のある可児の地で開校し、本年度9年目となります。この間、上級マイスター科では41名、マイスター科では132名が社会に巣立ち、それぞれの分野で大いに活躍してくれています。当校

には、生産、装飾、造園緑化の3分野があり、入学当初は全学生がこれらの3分野の基礎的知識と技術を幅広く学び、その後、分野に特化したより実践的な技術を学ぶようにしています。このような教育を行うことにより、どのような場面にも対応できる豊かな感性と柔軟な発想をもった応用力のある人材育成を目指してきました。

皆さんは、このような学びを通し、花と緑のもつ役割を体得し、それを社会にしつかりと伝えられるようになっていただきたいと思います。さらには、目標を同じくする先輩や仲間と交流し、様々な分野の先生方と議論し、自分を磨いてください。

ここで、これからこのキャンパスで学ぶにあたり、先人の残されたある言葉を紹介したいと思います。

その言葉は、「知ることだけでは十分でない。それを使わなくてはいけない。やる気だけでは十分でない。実行しなくてはいけない。」です。これは皆さんもよくご存じのドイツの有名な作家であり、科学者でもあったゲーテの名言の一節です。分かりやすい言葉で、当校のような実践することを主な目的としている学校での学びにふさわしい言葉です。これまでの学びはどちらかという受け身の学びで、知ることが優先され、学んだことを実践に応用する機会も少なかったかもしれません。しかし、これからのこの学校での学びは、自ら進んで知識を吸収し、それを実践で活かすことにあります。そのように学べば社会に出てもはずかしくない実践、仕事ができるはずです。

以上の言葉を胸に、花と緑のエキスパートになれるように勉学に励んで下さい。その学びを私たち教職員が一丸となりサポートして行きますので、学生の皆さんは悔いのない学生生活を過ごしてください。また、保護者の皆様には安心して私たちにお任せください。今日、ご出席いただきましたご来賓の皆様におかれましてもこれまでにもましてご支援、ご指導のほどよろしく願います。

最後に、新入生の皆さん一人一人が心身ともに健康で有意義な学生生活を全うされることを切に願い、私の式辞と致します。

平成二十四年四月吉日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘